

「精神障害者向けグループホーム職員の Emotional Intelligence 感情知性と研修プログラムの開発」に関する研究

1. 研究の対象

1) 参与観察（フィールドワーク）

(1) 東京都精神障害者共同ホーム連絡会より1施設

選定基準：精神障害者を対象としたグループホームを運営している施設

2) 研修プログラム検討会議（Nominal group technique）

(1) 東京都精神障害者共同ホーム連絡会および千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会 10名

選定基準：精神障害者を対象としたグループホームで従事している施設職員

2. 研究目的・方法

【研究目的】精神障害者向けのグループホームにおける職員の Emotional Intelligence（感情知性、以下 EI）と職場適応との関係を明確にし、利用者支援に与える影響とその資質向上に寄与する研修プログラムの開発を行う。具体的には①障害福祉領域における EI に関する国内外の先行研究の概観を総説としてまとめる。②協力施設での調査研究（質問紙調査、インタビュー及び参与観察）実施によるグループホームにおける職員に求められる EI の実態を明らかにする。③EI の獲得・向上に寄与する研修プログラムを立案する。以上のことを明らかにする。

【研究方法】

1. 参与観察（フィールドワーク）

1) グループホーム職員（世話人及び事務員）：

採用基準として、文書による同意を得た者とする。

2) 精神障害者を対象とするグループホームの利用者と OB・OG（元入居者）：

採用基準として、入居者はグループホームの用を1ヵ月以上継続している者、OB・OGとはグループホームを退所後もアクセスを継続している者とする。中断者は研究対象から除外する。

3) 期間及び所要時間

平成29年8月1日～平成30年3月31日を研究期間と予定しており、定期的（週に1回×20回、利用者と接触機会の多い夕刻4時間程度）に施設におもむき参与観察の実施を予定している。

2. 研修プログラム検討会議（Nominal group technique）

1) 研修プログラムの草案作成：

質問紙調査と参与観察のデータを基に、研究分担者と研修プログラム草案作成を行う。

2) 研修プログラム検討会議での研修プログラム内容の検討作業：

同意を得た職員を専門家集団として Nominal group technique を活用した検討作業への協力を依頼し、プログラム内容の妥当性を検討する。

3) 期間及び所要時間

平成 30 年 4 月 1 日～7 月 31 日を研究期間と予定しており、左記期間中に必要に応じて（プログラム内容の内容妥当性が得られるまで）1 回から 3 回の研修プログラム検討会議の実施を予定している。また、会議に要する時間は、1 回あたり 3 時間程度を予定している。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

1. 参与観察（フィールドワーク）

フィールドワークを通して研究者が見たこと、聞いたこと、感じたことを記録していきます。普段通りの日常でかまいません。伝えたいことなどがありましたら、研究者にお話してください。

2. 研修プログラム検討会議（Nominal group technique）

研修プログラム検討会議において、日頃お考えになっていることやその場で思いついたこと、プログラム草案に対しての意見など、会議を通して発言されたことと合意形成への意思表示を記録していきます。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて職員の方や利用者様もしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも職員の方や利用者様に不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：茨城県立医療大学 保健医療学部 作業療法学科 助教 水野高昌

住所：〒300-0394 茨城県稲敷郡阿見町阿見 4669-2

電話：TEL 029-840-2220 E-mail : mizunot@ipu.ac.jp

以上